

Ⅳ ワークスしんあい(令和4年度事業報告)

1. 事業報告の概要

生産活動を積極的にを行うことを重点的に取り組み、引き下げていた工賃支給率を通常に戻すことを目標とする。販路の開拓と同時に商品開発で売りに上げに繋げ、また受注作業においては作業環境を整備し安定した作業量を確保した。しかしながら物価高騰など社会情勢の影響を受け作業経費が想像を上回ることとなり、工賃支給率に対する目標の達成には至らなかった。生産活動は今後も積極的に行い工賃向上につなげたい。施設整備においては設備の老朽化と利用者の高齢化が進んでいることも相まり、転倒リスクに対する安全対策を施し、安心して通える環境を整えた。設備面については、今後も利用者の安全確保を叶えていけるよう検討していきたい。

- (1) 就労継続支援B型事業 委託作業や施設外就労の訓練等の機会の設定と充実を図り、工賃向上を目指す。
- (2) 生活介護事業 生産活動や余暇活動を通じて、自立した日常生活及び社会生活が営めるサービスを提供する。

2. 令和4年度取り組み

(1) 利用者支援

具体的な取り組み内容 取り組み方法・手段	実績
ア 個別支援計画に基づく支援 (ア) 個々の特性やニーズに応じた個別支援計画の作成と具現化した支援を実施する。 (イ) 多様な障害特性に応じて、また高齢者への適切な環境整備を行っていく。	(ア) 利用者状況の把握をしっかりと行い、ニーズを見極め適切な支援を行った。 (イ) 希望する作業、ニーズに合わせた取り組みが実現できるよう職員間での共有を密に行い、利用者の就労意欲につながるよう努めた。
イ 安定した作業の提供、及び工賃向上 (ア) 作業場の整備を行い作業効率をあげる。 (イ) 授産製品の売りに上げに繋がるよう、ホームページへの掲載やネット販売に向けた取り組みの検討。	(ア) 新しく受注した(株)BML メディカルワークスの検尿キット作成・梱包作業の生産性をあげるため、整理棚や物品を整備し作業環境を整えた。そのため、早期に目標とする一月に3万個を達成できた。 (イ) ネット販売の取組は準備不足で難しかったが、新製品を開発するとともに販路(山田園・アットファーム・金子屋・くるみの木)を拡大した。アットファームにはコラボ商品の「いちごカステラ」を商品開発し、授産製品の売りに上げに繋げることができた。しかし、コロナ禍でイベント販売の開催も少なく、また物価高騰による経費が嵩み工賃向上には至らなかった。
ウ 利用率の向上 (ア) 感染状況に配慮した活動メニューをつくり安心して通所できるようにする。	(ア) 休日開所では感染拡大時は室内の企画や、外食は貸し切りにするなど感染状況に応じて計画した。

(イ) 休みがちな利用者への積極的な声掛けを行い、長期欠席にならないよう支援する。	(イ) 欠席の多い利用者には、適宜、健康状態や家庭での様子を聞き取り状況確認した。欠席を長引かせず通所が叶うよう相談をした。
エ 虐待防止・権利擁護 (ア) 虐待防止・権利擁護に関する外部研修の受講、内部研修を実施し、職員一人ひとりの意識の向上を図るとともに、支援の質の向上を目指す。 (イ) 新規採用時に虐待防止・身体拘束等の適正化の研修を実施する。 (ウ) 利用者自治会など利用者の意見や要望を聞く機会を設定しより良い環境を構築する。	(ア) 全職員を対象に内部研修を実施した。グループワークを通して日頃に疑問に感じていることや、他職員の対応を知り得ることで、不安解消や難しい支援について研究することができた。 (イ) 新規入職の配属はなかったが、日々の支援の振り返りを継続して行うことと、面談を通して利用者支援、対応について話し合う機会を多く設けた。 (ウ) 自治会は 2 回実施。利用者の相談や要望にはその都度対応した。

(2) 人材育成

具体的な取り組み内容 取り組み方法・手段	実績
ア 研修への参加 キャリアパスに即した研修や、内部研修の充実により障害特性の理解を不可得るとともに専門的知識を身に付け資質の向上を図る。	外部研修は積極的な参加とはならなかった。就労支援活動の理解を深めるため、職業支援センターの就業支援研修に 1 名受講した。また、リクルートスタッフィングクラフツを見学した。
イ 部門別会議の実施 作業班別会議を設け、共有・確認を強化し効果的な運営に繋げる。	作業班会議を定期的実施し、利用者状況の共有と、作業取組に関して検討と確認を行った。

(3) 施設設備管理

具体的な取り組み内容 取り組み方法・手段	実績
ア 設備・備品の修理及び更新 (ア) カー口：ウッドデッキ、看板修理 カー口・ひととき：調理器具のメンテナンス計画の検討。(ひとときは市と協議が必要) (イ) ひととき：低温調理機、かき氷機、チェキ、食器調理器具の更新 (ウ) 手すりなどの高齢化対策の器具を設置	(ア) カー口店舗の老朽化したウッドデッキと看板柱の修理を実施。ウッドデッキ床板の取り替え及び、看板は構造上修理はむずかしいため腐敗止めを塗布。 (イ) ひとときの製氷機の不具合があり修理を川越市に依頼した。かき氷機を購入し、夏メニューで好評を得た。 (ウ) 外付けユニットトイレに手すりを設置し安全に使用できるようにした。

<p>イ 給食・食品衛生</p> <p>HACCP 衛生管理計画に基づき食品製造、調理を行い安全に実施する。</p>	<p>カー口、ひととき：衛生管理計画を作成し、衛生管理を徹底して実施した。</p>
---	---

(4)危機管理

<p>具体的な取り組み内容 取り組み方法・手段</p>	<p>実績</p>
<p>ア リスク管理</p> <p>(ア)ヒヤリハット報告事例から事故を未然に防ぎ安全に過ごせる環境を整備する。</p> <p>(イ) ストレスチェックの実施による働きやすい職場環境の創出、職員のメンタルヘルスケアを図る。</p>	<p>(ア)利用者の高齢化が進み、転倒するなどの事故が増えた。設備面での安全対策が必要となり年間計画通りに修繕を進めた。利用者間のトラブルには都度の支援経過を確認し再発防止に努めた。</p> <p>(イ) 職員間での意見の相違によるストレスを抱える職員が見られ、日頃の会議だけではなく個別での面談を繰り返し実施した。ストレスの軽減と課題解決に向かうように図った。</p>
<p>イ 防災・防火対策</p> <p>(ア) 消防計画を基に消火訓練・避難訓練を実施。</p> <p>(イ) 事業継続計画(BCP)の作成を行う。</p>	<p>(ア)消防計画に基づき避難訓練を2回実施した。</p> <p>(イ) 法人での委員会において、感染症に関するBCPの策定をした。</p>
<p>ウ 事業継続計画(BCP)の策定</p> <p>令和3年度報酬改定に伴い、感染症や災害時の業務継続計画(BCP)の策定が義務化(令和5年度末まで)されたため、策定準備を進める。</p>	<p>法人委員会において感染症に関するBCPの策定をおこなった。災害に関するBCPは既存のマニュアルの見直し策定の準備を行った。</p>
<p>エ 安全運転管理</p> <p>(ア) 経年劣化が著しい車両を計画的に入替える。</p> <p>(イ) 安全運転講習の実施(3名)</p> <p>(ウ) 車両点検、運行表の記入、安全運転を励行する。</p> <p>(エ) 事業所内での運転者の酒気帯びの有無の確認を徹底する。(道交法改正に伴う)</p>	<p>(ア)プレオとホビオの2台をリース車両に切り替えた。</p> <p>(イ)コロナ禍でもありスケジュール調整が難しかったため安全運転講習の受講はしていない。</p> <p>(ウ) 毎月の車両点検で気付いた箇所の修理等を速やかに実施し常に整備不良がない状態を維持した。</p> <p>(エ)酒気帯びチェックを徹底し、安全運転を行った。</p>

(5)その他

具体的な取り組み内容 取り組み方法・手段	実績
<p>ア 地域社会との共生</p> <p>(ア) 地域貢献を念頭に地域との連携を図ることで福祉拠点としての役割を果たす。</p> <p>(イ) 実習生、ボランティアを受け入れ、障がい者への理解を深めてもらい、後進の育成に努める。</p>	<p>(ア) 青年学級に参加し在宅障害者の活動の場を支えることが出来た。4年度の開催は3回だった。</p> <p>(イ) コロナ禍ということもありボランティア、実習生の受け入れはなかった。</p>
<p>イ 地域活動への参加</p> <p>(ア) 感染対策を徹底しつつ地域での販売、行事等へ積極的に参加する。</p> <p>(イ) 地域活動を通じて、利用者の社会参加と地域の方たちとの触れ合いの機会を支えていく。</p>	<p>(ア) できる限りの範囲で地域行事に参加し販売活動を行った。(新河岸フェスティバル、小江戸川越ハーフマラソン、福祉の市、グラウンドゴルフ大会など)</p> <p>(イ) 地域イベント販売に昨年度は出来なかった利用者の参加を再開した。久しぶりの販売参加に利用者の地域の方々との触れ合いの機会が作れた。</p>

■ ワークスしんあい（令和4年度事業報告 資料）

令和5年3月31日現在

1 利用者状況

(1) 障害支援区分(名)

支援区分	生活介護			就労継続		
	男	女	計	男	女	計
区分6	8	3	11	2	0	2
区分5	6	2	8	1	0	1
区分4	5	1	6	2	0	2
区分3	0	0	0	2	0	2
区分2	0	0	0	1	1	2
区分1	0	0	0	10	1	11
なし	0	0	0	0	0	0
合計	19	6	25	18	2	20

(2) 年齢構成(名)

区分 種別	性別	20歳未満	20歳以上～30歳未満	30歳以上～40歳未満	40歳以上～50歳未満	50歳以上～60歳未満	60歳以上	人数 合計	平均 (歳)
		就労継続 B型	男	1	7	3	4		
	女	0	0	0	1	1	0	2	47.0
	計	1	7	3	5	2	2	20	-
生活介護	男	0	3	4	4	2	6	19	48.8
	女	0	2	0	0	2	2	6	47.6
	計	0	5	4	4	4	8	25	-

2 事業所状況

(1) 各事業の実施状況

事業名	定員(名)	平均利用人数(名)	利用率(%)
就労継続支援B型	20	20.1	100
生活介護	20	14.3	71.1

(2) 実習生・研修生の受け入れ

区分	実習校等(か所)	人数(名)	延べ日数(日)
実習生	1ヶ所	3	15